

馬事協会便り

第3号
2009年10月



特集

アニマルウェルフェア推進事業に着手

TOPICS

対州馬を残そう—島原農高生が保存活動
どさんこの魅力満開—共進会とフォーラム

馬事協会Information

安部哲朗さん、本会に「アンタレス号」を寄贈

日本馬事協会 60周年を迎える

家畜人工授精講習会開催

種馬登録の現状

種雄馬7頭を配置



社団法人 日本馬事協会

馬事協会便り

2009年10月 第3号

目次

- 1 地球に優しい地駄曳き
高草 操
 - 2 アニマルウェルフェア
飼養管理確立推進事業に着手
 - 4 良き友、対州馬を残そう
～島原農高生、繁殖、保存へかける～
 - 6 どさんこの魅力満開
盛大に共進会とフォーラム開催
 - 10 とかち馬文化を支える会に熱い期待
 - 11 今治市が野間馬保存管理計画を策定
 - 12 地方馬産史 1 島原馬
「九州輓馬」の時代を画す
 - 14 書評
 - 16 馬の切手(ハンガリー) 田内 昂作
 - 22 両陛下をお迎えし「愛馬の日」
 - 23 遠野産乗用馬が世界の舞台で快挙
 - 24 馬は1頭も帰らなかつた
『国境の馬』拾遺を出版した 栗原 淑子さん
- 馬事協会インフォメーション**
- 8 安部哲朗さん、本会に「アンタレス号」を寄贈
 - 9 北海道乗用馬市場せり結果
 - 17 日本馬事協会 60周年を迎える
 - 18 平成20年度優良農用馬生産者を表彰
 - 19 平成21年度家畜人工授精講習会を開催
青森、神奈川で馬事知識普及公開セミナー
 - 20 種馬登録の現状
 - 21 種雄馬7頭を配置
 - 22 遠野乗用馬市場、上場馬カタログ放映



地球に優しい 地駄曳き

じだひ 地駄曳きとは、山で伐採した木を馬が曳く作業のことです。かつては全国各地で行われ、馬は林業に欠かせない働き手として活躍していました。けれど機械化が進んでトラクターが山に入るようになり、地駄曳きの技術を持った人もわずかになってしまいました。

岩手県遠野市で、今も地駄曳きを行う見方さんの仕事を撮影させてもらいました。トラクターが入れない冬場は、馬が頼りだそうです。

見方さんのパートナーは、北海道のばんえい競馬を引退した白い大きなペルシュロン。性格が穏やかで、すぐに山仕事を覚えたといいます。地駄曳きに使う独特な鞍に木材をくくりつける鉄具を装備すると、馬はなんだか楽しそうに道草をしながら山道を昇って



とい

高草 操

いきます。

作業場に着くと、斜面にはすでに切り倒された大木が数本。見方さんはそれらを馬の近くまで1本1本運び出していきます。足場が悪く作業には時間がかかりますが、馬は大人しく待っています。見方さんが数本の木を鉄具につけ合図をすると、馬はゆっくり歩き出しました。細い下りの山道は凍って滑りやすいのに、馬は上手に歩きます。やがて平坦な道に出ると馬は意気揚々と走り出し、集積場所で後から来る見方さんを待っていました。この作業を一日数回繰り返します。

確かに機械の方が効率はいいかもしれません。けれどトラクターによって伐採された山肌は、根こそぎ

木がもぎとられ、赤土がむき出しになり、山の嘆きが聞こえてくるようです。遠野でもかつては地駄曳きをする人が多く、現在の民家の多くは馬が山から曳いて来た木材を使っていると聞きました。

決して楽とはいえない地駄曳きの作業。だからこそ、山の恵みや木の命の重みを感じずにはいられません。馬による地駄曳きは山が荒れないといわれています。ECOが呼ばれる昨今、地駄曳きの技を絶やしてはならないのではないか、そしてもっと馬の能力を活かすことができるのではないかと思います。

(たかくさ・みさお フォトグラファー)

アニマルウェルフェア飼養管理確立 推進事業に着手

(社)日本馬事協会は、馬についてのアニマルウェルフェア、いわゆる快適性に配慮した飼養管理確立推進事業に着手した。(財)全国競馬・畜産振興会の助成を受けて3ヶ年計画で実施するもので、最初の2ヶ年で飼養管理指針を策定し、現地勉強会やセミナー等の普及啓発を行う。

アニマルウェルフェアの指針の策定については、平成17年度に(社)畜産技術協会が「快適性に配慮した家畜の飼養管理に関する勉強会」を開催してきた。この趣旨は、「日本の実態を踏まえ、家畜の快適性を追求しながら、生産性の向上が図られるように推進することが必要」であり、「畜種ごとに具体的な検討を行い、消費者を含めた関係者間

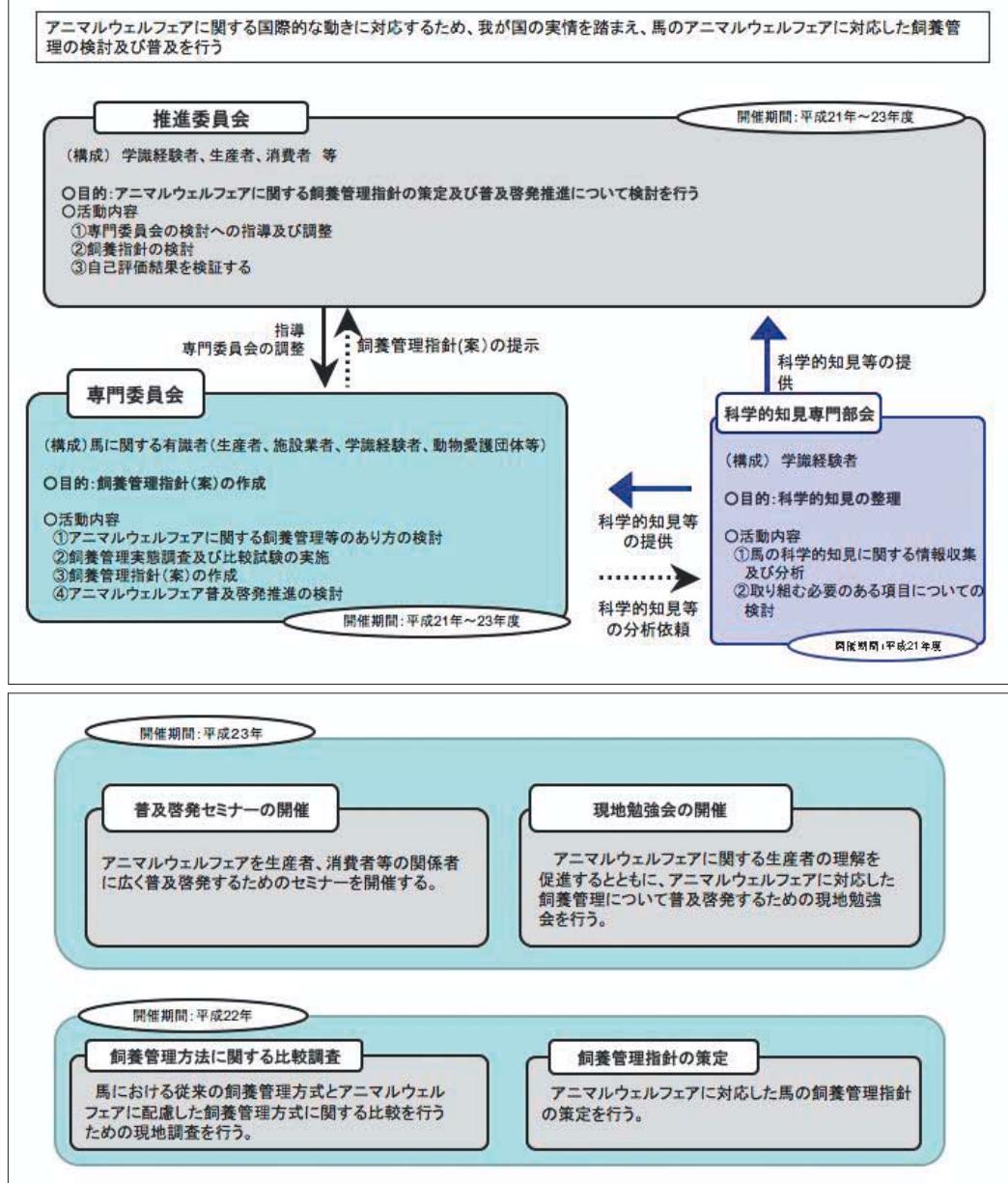
で十分理解されたアニマルウェルフェアに基づく飼養管理ガイドラインを策定することが重要」であると整理した。

“Animal Welfare”は、日本では「動物福祉」や「畜生福祉」と訳されている場合が多いが、「福祉」という言葉が社会保障を指す言葉としても使用されていることから、本来の「幸福」や「良く生きること」という考え方方が十分に反

●アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業進捗状況書

項目	事業内容	年度別実施計画		
		平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業推進委員会開催等事業	(1)事業推進委員会	事業の総合的な実施方針等の検討を行うとともに最終年度においては、当該事業における達成目標等の自己評価を行う。	事業内容の推進及び事業達成目標の検討をするための委員会を7月上旬に開催する。	事業内容を推進するため委員会を4月上旬に開催する。
	(2)専門委員会	アニマルウェルフェアに基づく飼養管理指針の策定及びアニマルウェルフェア普及啓発推進について検討を行う。	飼養管理指針の策定を行うための専門委員会を8,11,3月に開催する。	飼養管理指針の策定を行うための専門委員会を7,11,3月に開催する。
	(3)科学的知見専門部会	日本が取り組むべきアニマルウェルフェアに対応した飼養管理の科学的知見及びその知見に基づいた導入時のメリット・デメリットを整理する。	科学的知見及びその知見に基づいた導入時のメリット・デメリットを整理するため、8,11,1月に開催する。	
	(4)事業推進事務	事業の推進事務を行う。		
対応飼養管理確立推進事業	(1)国内外の情報収集・分析	文献の収集等によりアニマルウェルフェアに関する国内外の情報の収集及び分析を行う。	国内外の情報の収集及び分析を行う。	
	(2)飼養管理方法に関する実態調査	国内における馬の飼養管理方法の実態を把握するため、農家を対象とした現地調査及びアンケート調査を行うとともに、実態の分析を行う。	北海道、東北、九州の4ヶ所において現地調査を実施するとともにアンケート調査を実施する。	
	(3)飼養管理方法に関する比較調査	馬における従来の飼養管理方式とアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理方式に関する比較を行うための現地調査を行う。		北海道、東北、九州の4ヶ所において現地調査を実施する。
	(4)飼養管理指針の策定	アニマルウェルフェアに対応した馬の飼養管理指針の策定を行う。		アニマルウェルフェアに対応した馬の飼養管理指針の策定を行う。
普及啓発推進事業	(1)普及啓発セミナーの開催	アニマルウェルフェアを生産者、消費者等の関係者に広く普及啓発するためのセミナーを開催する。		北海道、東北、九州の4ヶ所において関係者に広く普及啓発するためのセミナーを開催する。
	(2)現地勉強会の開催	アニマルウェルフェアに関する生産者の理解を促進するとともに、アニマルウェルフェアに対応した飼養管理について普及啓発するための現地勉強会を行う。		北海道、東北、九州の4ヶ所において生産者に理解を促進するための現地勉強会を開催する。
	(3)普及啓発冊子の作成・配布	アニマルウェルフェアを生産者、消費者等の関係者に広く普及啓発するための冊子の作成及び配布を行う。		普及啓発冊子の作成及び配布を行う。
	(4)アンケート調査	アニマルウェルフェアに対応した飼養管理の理解度を測るためにアンケート調査を実施する。		アニマルウェルフェアに対応した飼養管理の理解度を測るためにアンケート調査を実施する。

アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業のうち各委員会関係図



映されておらず、誤解を招くケースが多々ある。そこで、今回、策定する指針では、「アニマルウェルフェア」を「快適性に配慮した家畜の飼養管理」と定義することにしている。

アニマルウェルフェアへの対応とは、最新の施設や設備を導入することが求められるのではなく、家畜の健康を保つために、家畜の快適性に配慮した飼養管理をそれぞれの生産者が考え、実行することにある。その対応において、日々の家畜の観察や記録を行い、良質な飼料や水の給与等の適正な飼養管理により、家畜の健康が保たれることである。それを実践することにより、生産性が向上することを期待している。

すでに「鶏」と「豚」については「飼養管理指針」が策定・公表されており、「乳用牛」「肉用牛」についても指針策定

に向けた検討が行われている。

(社)日本馬事協会でも、馬の行動的欲求に配慮した飼養管理が生産性を向上させるうえで重要だと位置づけ、アニマルウェルフェアに対応した飼養管理指針を策定し、生産育成技術等の改善・向上を促す必要があると考え、今年度から本事業に着手することになった。

アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業の進め方については、今後2年間で科学的知見に基づいた飼養管理指針を推進委員会等で策定し、3年目には普及啓発を行うために、各地での勉強会やセミナーが予定されている。この指針については、今後、事業の進捗状況に応じて、「馬事協会便り」で報告することにしている。

“Animal Welfare”とは

1960年代、密飼い等の弊害が提起され、その是正等として英国で提起された「5つの自由」を中心に“Animal Welfare”的概念が普及した。

「5つの自由」とは(①飢餓と渴きからの自由、②苦痛、傷害または疾病からの自由、③恐怖及び苦悩からの自由、④物理的、熱の不快さからの自由、⑤正常な行動ができる自由)を指す。現在では、EU指令として“Animal Welfare”に基づく飼養管理の方法が規定され、各国はEU指令に基づき、法令・規則等をそれぞれに定めている。

良き友、対州馬を残そう

～島原農高生、繁殖・保存へかける～

対馬市での対州馬の測定

郷土の貴重な文化財、対州馬の絶滅を防ごうと長崎県立島原農業高校の生徒と教諭が対州馬の繁殖と飼育の指導に取り組んでいる。繁殖用対州馬を飼育し、外部から依頼があれば種付けに応ずるほか、依頼があれば飼育指導を行い、同校で生まれた子馬を動物園に貸し出すなど保存活動に関心を持ってもらうのがねらい。近親交配を避け、計画交配を行うために血統図を作成、健康診断の実施等、意欲的な試みが行われている。指導に当たる農業科学科の山田善光教諭(31)は「対馬で飼われてこそ対州馬。繁殖させて1頭でも

多く対馬に戻したい」と話している。

極端に低い受胎率

対州馬は体高135cm以下と小柄で肢蹄堅牢、傾斜地の歩行、駄載に耐える馬として重宝されてきた。飼養頭数は明治、大正時代は4,000頭を超えたが、戦後は農業の機械化、自動車の普及などで激減、現在、島には32頭しかいない。馬は対州馬振興会、対馬市、個人で所有しているが、農家は高齢化が進み飼育は減少した。

また、繁殖用馬も高齢化、近親交配が進み、受胎率が極端に低いのが大き

な問題となっている。そこで山田教諭の呼びかけで、クラブ活動の社会動物部が平成16年度から対州馬繁殖プロジェクト研究を始めた。同校は平成13年度から雌の卑弥呼(14歳)、雄の武藏(12歳)を飼育している。当初3年間で3回妊娠したが流産したり、出産直後に死亡した。そこで対策として母乳から免疫物質を抽出して子馬に与えたところ、その後はヤマト(雄2歳)、続いて今年は春華(雌)が生まれ、元気に育っている。

飼育頭数が少ないことによる近親交配が懸念されることから始めたのが血統図の作成、基礎データ収集。山田教

諭と部員は2泊3日の日程で空路対馬を訪れ、すでに調査は6年目を迎える。今年は8月10日～12日に卒業生も加わり6人が「あそうベイパーク」、「目保呂ダム馬事公園」、農家を回った。採血のあと体高、体長など15か所を測定、飼料給与等



データ収集へ採血



五島市から種付けのため到着した馬

について聞き取り調査を行った。

調査・研究費は自賄

調査に参加する旅費、採血管、測尺計の購入も自己負担だ。1人35,000円かかる。そこで民宿を利用、機材も工夫して節約する。年によっては夏ではなく春休みを利用して調査に行くこともある。平成19年は、長年、対州馬の調査研究を行っている鹿児島大学農学部(岡本新教授ほか4人)と共同調査した。調査の主目的は血液採取と馬体の測定だが、農家や関係者の聞き取り調査、話し合いも有意義だ。

初めて現地を訪れた参加者は、温かな表情の馬に感動する半面、飼養管理の実態に驚く。馬は年中厩に入れたまま、特に蹄の手入れがなおざりなっていること。運動不足から太り過ぎ、それにより血中コレステロールが上昇していた。その一方で、農家の納屋にある荷駄用の鞍、田畠を耕す犁(すき)を見て、昔の馬が農作業に携わっていた頃の畜力利用や馬の体型を推測することができたという。

島に滞在中、対州馬振興会関係者との交流会が行われる。双方で質問と話題が集中するのは、受胎率が悪く、生まれる子馬が極端に少ないことだった。農高在学中、毎年対馬の調査に出かけ、日本獣医学大学獣医学部へ進学した山崎文晶さん(18)は「日本在来馬が少なくなっているので、自分の目で確かめるのが目的だった。対馬にいてみると、種雄馬が少なく、近親交配の悪影響が出ていると思うと悲しい」という。今年はOBとして参加、「将来は畜産繁殖分野を専攻し、在来馬の交配に関する仕事に従事したい」と語る。

血統図は昭和53年までさかのぼり作成中だが、集計、聞き取り調査の整理は部員によって行われる。平成23年まで

社会動物部馬班と山田教諭(左端)



に報告書をまとめ、公表する計画だ。毎年訪れる農高生をみて島の人達は「高校生がここまでやってくれるとは…」と驚く一方、血統図の完成に期待を寄せている。

対州馬を貸し出し、飼育指導

同校はユニークな教育実習、プロジェクト発表で知られる。卒業生の新規就農が多く、昨年は全国一になった。学校では馬のほかロバ、山羊、めん羊、鶏、ブロイラーなど35種類の家畜を飼育しており、一部は解剖、調理実習に使われる。山田教諭は文部科学省の産業・情報技術等指導者養成研修の講師に認定されており、近隣の学校へ鶏の解剖などの実習に出かけ、動物と人間、命を考える授業も担当している。一方、社会動物部は有明海で異常繁殖し環境保全上問題になっている海藻「アナアオサ」を加工、家畜の飼料にする実験を行っている。対州馬の繁殖プロジェクトは地域の課題解決の一環であり、「アナアオサ」の飼料化と同様に日本学校農業クラブ長崎県大会で発表して注目された。

出来ることは生徒が率先してやる。馬などの粗飼料は乾草の半分は野草や土手のり面を刈って確保、稻わらは近

くの田からもらう。

対州馬の貸し出し、飼育指導も始めた。「動物園が日本在来馬を繁殖して現地(保存地域)へ戻すネットワークづくり」を提唱する小宮輝之(社)日本動物園水族館協会会長、東京都恩賜上野動物園長の呼びかけに応ずるもので、9月15日に仙台市の八木山動物園に同校で飼育されていた卑弥呼と武藏の産駒、「ヤマト」(雄、2歳、鹿毛)が貸し出された。来年3月には佐世保市立亜熱帯動植物園に対州馬が導入される。これら動物園の飼育指導は山田教諭と部員が出向き対応する予定だ。

また、南島原市の知的障害者センターで飼育されている対州馬の血統、健康診断調査も平成16年から行っている。

五島市で診療所を運営する医師、宮崎昭行理事長も対州馬を繁殖して島に戻そうと頑張る一人。山田教諭の協力で島原まで馬を運び種付けし、19年に念願の雌馬を出産した。宮崎理事長は「山田先生は熱心で、行動力がある。対州馬を絶滅させないために、こういう人が1人でも増えることを願っている」と先生の活躍に期待している。環境と自然にやさしい生活の実践に馬や牛を使った在来農法に取り組んでいる。

どさんこの魅力満開

盛大に共進会と フォーラム開催

北海道開拓の原動力として貢献し、『北海道遺産』に認定されている北海道和種馬（通称どさんこ）の保存活用を図ろう—と9月5～6の両日、日高郡新ひだか町の北海道大学静内研究牧場で第32回北海道和種馬・第15回ポニー共進会が北海道和種馬保存協会（近藤誠司会長、北大大学院教授）の主催で開かれた。併せてどさんこを広く知ってもらおうとフォーラム「どさんこを見る・さわる・乗る会」も行われ、生産者のほか乗馬関係者、研究者、報道関係者、地域住民らが参加し、にぎわった。イベントでは隊列をつくって重い荷物を運ぶ駄載（だんづけ）、片手手綱、もう一方の手にビールジョッキを握り中身をこぼさずに走るジョッキージョッキーレース、古式ゆかしい衣装をまとった流鏑馬（やぶさめ）の模範演技などに観客から声援が送られた。小柄だが、四肢や蹄が丈夫で、側対歩（前後の同じ側

の脚を組にして動かす）得意とするどさんこだからこそできる得意技で、注目された。

体型、歩様も粒ぞろい

共進会は年齢別に和種馬4部門、ポニー4部門に分かれ7支部から選り抜きがそれぞれ30頭、17頭が出陳された。3歳以上の和種馬は体型審査のほか騎乗時の状態、特に側対歩（ジミチともいう）ができるかが渕山達男、近藤誠司の両審査員により慎重に審査された。

どさんこの毛色はバラエティーに富み、美しい。芦毛、河原毛、月毛、佐目毛、粕毛などさまざままで、まさに見本市の様相を呈している。

審査の結果、各部門とも均整がとれて、歩様も良く、和種馬が具備すべき良い点をそろえていると、高く評価された。ただ、一部に側対歩が不十分なもの、削蹄に多少問題があるものが見られた。

ポニーは乗馬入門用、子供乗馬用として期待されており、全般に資質の良いものがそろった。この中から最高位賞として和種馬は「月竜花号」（平成15年4月生、雌、河原毛、生産者・前山秀雄氏、恵庭市）、ポニーは「スターフェバー号」（平成15年5月生、鹿駒毛、生産者・長谷川善兵衛氏、別海町）が選ばれた。

森林管理、多様な乗馬用に期待

どさんこは、東北の南部馬を先祖として今から約400年前頃から北海道に入ってきたといわれる。以来、駄載、乗用などで北海道開拓に貢献してきた。しかし、農業の機械化、自動車の普及で昭和40年にはどさんこの役目を終える形になった。とはいえ優秀な頭脳と強健な体力を保持したどさんこと伝統の馬文化を消滅させることは将来に向けて禍根を残すことになりかねない。そこで生産者と関係者がどさんこと馬文化

の保存継承・新しい活用の道を開拓しようというのがフォーラムのねらい。

シンポジウムは「北海道和種馬の歴史と現状」と題し近藤誠司北大大学院教授、「乗用馬としてのどさんこの可能性」で



入念な共進会の審査

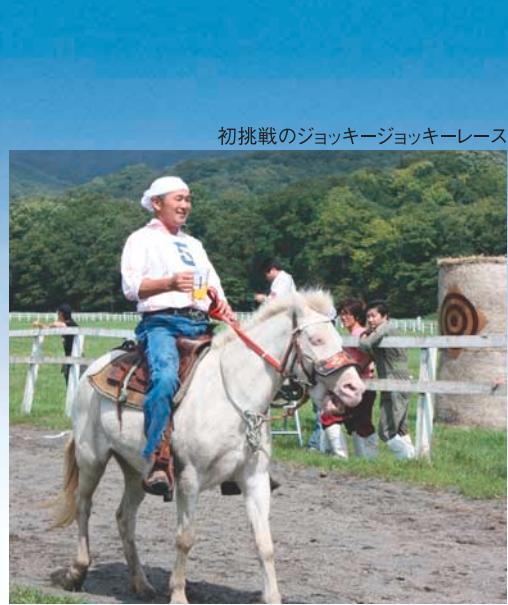


(左) 和種馬最高位賞の月竜花号
(右) シンポジウム会場





だんづけの実演



初挑戦のジョッキージョッキーレース

藤田知巳全国乗馬俱楽部振興協会普及部長が講演、さらに午後5時～7時、会場を北大静内研究牧場の作業庫に移し総合討論「もっと語る会」を繰り広げた。

話題提供で近藤教授は、どさんこの起源と歴史について触れ、寒さに強く年中屋外飼育できること、駄載、乗用に加え食肉用、當て馬（試情用）、流鏑馬などスポーツ用、障害者乗馬用、森林管理（ササ類採食）のための林間放牧、さらには森林騎馬隊、災害救助馬（レスキューホース）、大人から子供まで楽しめるホーストレッキング用など多様な用途、可能性を挙げた。

乗用馬としての可能性について藤田部長は、①近年、乗馬人口は拡大しているが、受け皿としてのポニーの生産は不安定であること、②その点、日本在来馬は性質が温順で、中型から小型まであり、一定頭数の供給が可能であること、③しかし、在来馬の利用は、観光や伝行事など（狭い）地域内の活用にとどまっており、供給面からもどさんこ等を除くと現状では各保存会とも増頭は厳しい。そこで対策としては、保存方針のスケールから外れた馬（規格外馬、除外馬）は一定の「駄（しつけ）」を施して定期的に乗用馬として外に出していくべき、規格に合致した保存個体が更新され、さらに一定の販売収入が確保できるのではないか—と提案した。

在来馬の保存に際しての問題点は「しつけなくして、活用なし。活用なくして保存なし」ということだ。在来馬は希少性とともに話題性に富む。それだけ活用のステージは沢山存在する。そこで「調教は馬を買った乗馬クラブのやる仕事」といわずに、生産する側は基礎的な駄を施し、「マナーのよい馬」として供給してこそ活用の幅が広がる—と期待と注文を述べた。

だんづけ隊、流鏑馬、ジョッキーレースも登場

2日目の「どさんこを見る・さわる・乗る会」は研究牧場馬場で行われ、共進会参加者のほか地域住民も見学に訪れた。だんづけ実演のほかジョッキージョッキーレース、流鏑馬模範演技が披露され、体験乗馬も行われた。

どさんこの最大の特徴は背に重い荷物を積んで運ぶ駄載。鞍は1本の木を削り、前が高く後ろが低い独特の形をしている。荷は馬の体重の半分、丈夫な馬は自分の体重分も積んで山野を行ったという。実演では3頭の馬が長い材木や薪（まき）、俵物を積んで行われた。これらはすべて1本のロープで結わえられており、危急の際は重量物の荷を瞬時に下ろす工夫が凝らされている。最盛期は山間部で大重量の高



流鏑馬の模範演技

圧線の資材を運んだり、日本海側では石川県、太平洋側では浜松まで出かけ活躍したという。昭和50年代から平成前期は富士山騎乗登山を敢行、喝采を浴びた。

今年の試みはジョッキージョッキーレース。350cc入りのジョッキーにビール（実際はお茶）を入れ、コースは約550m、中身をこぼさずに4分以内に走破し、コップの残量とタイムを競う。側対歩だからこそできる競技だ。2レースに8騎が参加、1騎は落馬して失格したが7組が完走。平均タイムは2分台、1位は1分33秒・ジョッキー残量205gだった。

統いて古式床しい装束で行われた流鏑馬模範演技は高校生、大学院生の女性が出場、疾走する馬上から3つの的に向けて矢を放つ勇壮さに観客から拍手が送られた。

パンサーの後継馬を託される 安部哲朗さん、 本会に「アンタレス号」 を寄贈



日本馬事協会の赤保谷明正会長から安部氏へ感謝状の授与

釧

路セントラル牧場といえば、20年以上前からスポーツホース生産を続けている日本の乗用馬生産のパイオニア的存在として知られる。同牧場の安部哲朗社長(84)は、このほど牧場の名種雄馬として広く知れ渡っているパンサー号の産駒「アンタレス号」(平成20年5月3日生、栗毛)を後継種雄馬として後世に残したいと願い、同馬を本会に寄贈された。本会では、その意を汲み、種雄馬として活用していくことにした。

安部さんは、馬生産農家の生まれで、日中戦争の時に応召、復員後は農業に従事した。昭和31年から昭和58年まで釧路農業協同組合連合会で畜産の指導に当たり、退職後は、「内国産乗用馬でオリンピック出場」

を目標に20年以上セントラル牧場を経営してきた。乗用馬生産牧場の大半が10頭に満たない生産頭数であるのに対し、同牧場は毎年15頭前後の生産をしている大規模な牧場である。同時に、優秀な産駒を数多く輩出している牧場としても知られる。

同牧場の産駒であることの証明として、安部さんが認めた馬には、左の股にVの烙印が押されている。Vの烙印を持つ馬が馬術競技会で活躍することにより、セントラル牧場の名は関係者に広く知られてきた。

パンサー号は、安部さんが1990年にドイツのオークションで購入した4頭(雄1頭、雌3頭)のウェストファーレン種のうちの1頭だった。

それ以後、日本馬事協会に血統登録された産駒だ



アンタレス号

ウエス アンタレス	ウエス パンサー	ウエス PILOT
		ウエス AILINE
	ウエス ガーナー	ウエス GENERAL I
		ウエス GRAZIE



パンサー号

けでも151頭に上り、その中には、エイプリル号（クレインオリンピックパーク所属）をはじめ、近年では、障害馬術競技で活躍しているピンカートン号（座間近代乗馬クラブ所属）など、全日本や国体で数々の賞を収める名馬もいる。このことは、我が国においても、外国産の馬に負けない馬が生産できるという証しともなった。

そのパンサー号も今年23歳となった。安部さんは近年、後継馬となる資質を持った馬が生まれるのを待っていた。それが今回、日本馬事協会が寄贈を受けたアンタレス号だった。

安部さんがアンタレス号を寄贈することになった背景には、「パンサー号の後継馬を残して乗用馬生産界に貢献したい」という思いと、「自分も80歳と高齢になった

ことから、日本馬事協会の手で種雄馬として仕上げて、後の乗用馬生産界に役立てほしい」という願いからだった。

乗用馬の種雄馬は、その産駒が7～10歳位までならないと、その資質が見極められない。

したがって、現在、アンタレス号が3歳から種付けを行うとしても、産駒の成長が判明するのは、10年以上先となる。種雄馬の資質を見極めるのは非常に難しいが、その安部さんの思いと願いを何としても叶えてやりたいものである。

アンタレス号は、現在、遠野市にある遠野馬の里に繋養されて、種雄馬になるための調教が行われている。

日本馬事協会は、平成20年度から（財）全国競馬・畜産振興会の助成を受けて、昨年、フランスIMV社製の擬牝台を購入、これを馬の里に設置し、擬牝台による精液採取・利用試験を実施している。来年度からは、本格的に擬牝台を用いた周年採精が行われることとなるが、その候補がアンタレス号だ。

売れ行き良かったポニー

●北海道乗用馬市場せり結果

平成21年度北海道乗用馬せり市場（根釧乗用馬生産育成振興会主催）は9月29日、釧路市のホクレン釧路地区家畜市場で開かれた。スポーツホースからポニーまで多様な馬58頭が上場され、31頭が売却された。最高2,436,000円、最低262,500円、総平均663,870円で、昨年に比べ売却率は低下したが、ポニーは購買者の人気を呼び、非常に良く売れたのが目立った。セリ市場終了後、（社）日本馬事協会の主催で乗用馬生産育成検討会が開かれたが、上場に向け馴致調教、能力査定が年々浸透してきていることが評価され、馴致調教の完成度が高い馬がよく売れていたのは朗報だ。半面、騎乗展示で十分成果を見

せられなかったこと、せり名簿にフリージャンプの写真が載っていないものがあるなど改善が望まれた。

今年は購買者ら100人以上が集まり、上場馬も昨年、一昨年の30頭前後に比べ58頭と多く、活気を呼んだ。中でもポニーが非常に良く売れたのは特筆される。また、今年はほとんどの生産者が前日から馬を搬入して会場への馴致、インドアを使った曳き馬展示、フリージャンプを行った結果、当日はスムーズに進んだとみられた。一方、購買者からの問い合わせに迅速に対応するシステムが確立されていないなど課題も依然残っている。



出前授業では昔の馬耕再現を見学したり、碎土機などを引いてみる(芽室町立上美生小学校で)

ばんえい競馬は、『ばんえい十勝』として帯広単独開催となり、3年目に入った。『ばんえい十勝』を側面から応援するNPO法人「とかち馬文化を支える会」(理事長・柏村文郎帯広畜産大学教授、会員約200人)も3年目を迎えたが、ばんえい競馬を核として全国へ多彩な馬文化情報の発信が高く評価され、地域活性化計画が内閣府に

一号(元ばんえい競走馬)誕生会、小学校や幼稚園への出前授業・講座などユニークな企画が目白押しだ。

ばんえい競馬ファンは2世代、3世代と年齢層が厚く、家族連れの観客も多い。特に北海道は開拓の歴史、産業の発展に馬が果たした役割は大きく、馬は北海道文化遺産にもなっている。

の仕組みなどを解説する。

理事会は2か月に1回ほどのペースで開かれるが、機関誌の発行や各種イベントの企画立案から実施までは、専従職員がいないため会員やボランティアが頼りだ。通常は旋丸巴専務ら事務局・スタッフ、帯広畜産大学の「ばんえい研究会」の学生らを中心に企画を提案・検討し、実行に移していく。

当面の構想は子供たちに「馬事公苑的なもの」を残したいそうだ。畑を子供たちと馬で耕し、種まきから手入れ、収穫までやる。エコ農業だから馬ふんもリサイクルするのがモットーだ。

とかち馬文化を支える会 に熱い期待



「ばんぱグラス」

認定されたほか、道内の報道・金融機関から相次ぎ奨励賞等を受賞、地域や各界からその取り組みが期待されている。

支える会は平成19年、道内4市で開催されていたばんえい競馬廃止の危機の中で、ばんえいファンや市民らの有志で創設された。そのなかで「ばんえい応援」ばかりではなく、「ばんえい競馬を核に、馬文化を全国に発信する」のが目的だと位置付けられた。

発足してから2年間の活動実績は別表のように機関誌(年2回)、「馬文化新聞」の発行はもちろん、ばんえい競馬PR、騎手と会員の交流会、ホースフェア、馬耕(実演)まつり、馬との自然体験塾、「馬と遊ぼう クリスマス」などのイベントのほか、管内畜産物消費拡大キャンペーン、馬事知識普及公開セミナー、帯広市“嘱託職員”リッキ

馬耕まつりの実演(再現)や出前授業・講座はそうした歴史や文化を後世へ伝承しようという願いがこめられているわけだ。管内畜産物消費拡大キャンペーンは、地域の生産物に誇りを持って大事にして、地域活性化の一助にしたいという期待がある。

出前講座は、元ばんえい競走馬などを連れて学校や幼稚園に出向き体験乗馬やふれあいを楽しむほか、草食動物と肉食動物の違い、食物連鎖

関係者の今後の抱負を一言。「ばんえい競馬の観客も徐々に高齢化しており、馬券の売り上げだけでは限界がある。支える会の会員をもっと拡大していきたい」(古林英一北海学園大学教授)、「(競馬業務委託先の)オッズパーク・ばんえい・メネージメントの手の届かないところまで支援してほしい」(鈴木新一元帯広市ばんえい振興室長)、「馬と人間の歴史をもう一度学び直し、このすばらしい動物とともに生きる町づくり・村づくりを皆さんと一緒に考えていきたいと願っている」(柏村文郎理事長)。

●問い合わせ・入会

問い合わせは下記へ。同会には正会員と協賛会員がある。正会員はこの法人の目的に賛同して入会した個人。年会費は3,000円。協賛会員は会の事業を賛助するために入会した個人もしくは団体又は企業。年会費は企業・団体:一口1,000円(10口以上)、個人1,000円(3口以上)

事務局

特定非営利活動法人 とかち馬文化を支える会

〒080-0021 帯広市西11条南16丁目1-6

TEL.0155-67-6890 FAX.0155-67-6891

<http://umabunka.com/> E-mail:info@umabunka.ne.jp

◆活動経過

平成19年

- 4月11日 準備会・任意団体「とかち馬文化を支える会」設立総会
- 27日 『ばんえい十勝』スタート
- 5月17日 NPO法に基づく法人の設立総会開催。会員募集開始。
- 7月28日 第1弾イベント「ピュア・アラビアンホース・フェア」
- 第1回「帯広市管内畜産物消費拡大キャンペーン」
- 8月14日 北海道庁からNPOの認証おりる
- 26日 第2回「帯広市管内畜産物消費拡大キャンペーン」
- 9月22日～24日 馬耕まつり 第1弾。働く馬、ばんえい競馬写真展
- 10月18日～21日 フランスからUNICなどのミッション来訪に応対
- 11月10日～11日 馬耕まつり 第2弾

平成20年

- 3月20日 シンポジウム「ばんえい競馬を考える」
- 5月17日 ばんえい競馬のPRに「馬の春まつり」
「ふれあい出前講座」(芽室町の上美生小学校で馬耕実演)
- 20日 総会
- 30日 乗馬セラピー講演会「障害者にとって何故乗馬は効果があるのか」
- 31日～6月1日 障がい者乗馬ヘルパー講習(帯広市と共催)
- 6月29日 谷あゆみ調教師、内閣府「平成20年度女性のチャレンジ賞」受賞
お祝いセレモニー
- 7月12日 畜産物の消費拡大へ畜産フェア
- 31日 講演会「補助療法としての障がい者乗馬」
- 8月15日～16日 「平原まつり」に会のPRブース設置
- 19日 第1回馬事知識普及公開セミナー(帯広市)
- 23日～24日 馬との自然体験塾
- 31日 畜産フェアで乳製品をPR
- 9月5日～7日 馬耕まつり 2008(農作業実演、馬の世話・ふれあい、
乗馬、蹄鉄づくり、馬の絵コンテスト、農機具展)
- 12日 ばんえい騎手と会員の交流会。インターネットショップ
「ばん馬ショップ」オープン
- 9月27日～28日 障がい者乗馬ヘルパー講習中級編
- 10月9日 北海道新聞社「北のみらい奨励賞」受賞
- 11日 第2回馬事知識普及公開セミナー(帯広市)
- 18日～19日 人間ばんばまつりに協力
- 11月20日 釧路しんきん地域貢献助成制度「地域貢献奨励賞」受賞
- 12月22日 「馬と遊ぼう クリスマス」

平成21年

- 1月10日～24日 ばんえいキッズ・クラブ実施
 - 12日 第3回馬事知識普及公開セミナー(札幌市)
 - 31日～2月1日 おびひろ氷まつりin競馬場「馬の冬まつり」
 - 2月9日 帯広市“嘱託職員”の馬、リッキー誕生日に
ニンジン1袋と髪飾プレゼント
 - 18日 出前授業・講座 帯広市立川西小学校
 - 24日 出前授業・講座 帯広市立森の里小学校
 - 3月6日 出前授業・講座 芽室町立上美生小学校
 - 22日 協賛レース(パンバオーレ杯、募金・寄付感謝杯)
 - 24日 セミナー「ばんえい競馬を科学する」(帯広市)
 - 5月29日 西町公園ごみ拾い
 - 6月13.14日 子供縁日支援
 - 6月16日 出前授業(帯広市・森の里小学校 4年生)
置戸人間ばんばPRブース設置・グッズ販売
 - 6月22日 帯広刑務所共同事業制作「ばんばグラス」発売
 - 7月12日 Aiba石狩イベント PRブース設置・グッズ販売
鹿追草ばんば レース協賛 PRブース設置
 - 22日(水) 十勝農協連合共進会支援(副賞提供)
 - 8月1.2日(土・日) 七タイイベント
 - 5日 馬文化新聞発行
 - 15日(土) ばんえいグランプリ前夜祭
 - 16日(日) ばんえいマスターズカップ
 - 20日(木) 未来の帯広競馬場デザイン・コンクール審査会
 - 9月2日(水) 音更・東士幌草ばんば支援(レース協賛)
 - 5・6日(土・日) 釧路どんばく祭PRブース設置・グッズ販売
 - 6日(日) 十勝牧場PRブース設置・グッズ販売
川崎競馬場イベントPRブース設置・グッズ販売
 - 6・7日(日・月) ねんりんピックPRブース設置・グッズ販売
馬を核とした総合授業の取り組み(啓西小学校 於・D-Jランチ)
 - 12日(土) 帯広刑務所矯正展 PRブース設置・グッズ販売
 - 9月23日(祝) 東京馬事公苑「愛馬の日」PRブース設置・グッズ販売
 - 27日(日) 摩周馬まつり、後援、PRブース設置・グッズ販売
 - 30日(水) 馬の出前授業(啓西小学校)
馬文化新聞発行
- 【事業予定】**
- 10月18日(日) チャグチャグ馬コ in 帯広競馬場
 - 25日(日) 第2回馬学セミナー(浦河)
 - 31日(土) ばん馬祭り「ふれあいイベント」
 - 1月中旬 第3回馬学セミナー(帯広)

今治市が野間馬保存管理計画を策定

今治市は、平成21年3月、野間馬ハイランドに繫養されている野間馬を対象とした保存管理の方針及び方法等を整理した「今治市野間馬保存管理計画」を策定した。それによると、優良な種を保存するため、血統登録馬と繁殖登録馬に限定して保存し、それ以外の馬はハイランド以外での利活用と譲渡対象馬として放出する。また、感染病等による絶滅を回避するための飼育場所の確保いわゆる分飼が必要となるが、放牧場予定地の選定・周辺住民の同意や施設整備に要する財源の確保が課題となっている。

野間馬は、戦後、輸送手段の発達、農業の機械化等により、利用価値が薄れ、頭数は激減、絶滅の危機に見舞われた。昭和53年に4頭だった野間馬が平成元年に開園した野間馬ハイランド等の関係者の努力により、平成20年には85頭になった。そのため、今治市は、野間馬ハイランドの目標保存頭数はほぼ確保されたとしている。しかし、「保存すべき野間馬の基準策定」、「繁殖グループの拡充」、「感染病等による絶滅の回避のための飼育場所の確保」、「野間馬の放出に係るルールの整備」等保存管理の課題も多い。この課題を解決し、次世代に継承するために今回の策定に至ったものである。管理計画は大きく2つある。

一つは、現在繫養されている馬をブリーディング・ストック、利活用対象馬及び譲渡対象馬のコマーシャル・ストック並びに調整対象馬に選定を行うこと。二つ目は、譲渡又は貸付に関する基準の策定を行ったことである。

ブリーディング・ストックの対象となる馬は、血統登録書等を有している馬であり、事故や高齢となった馬は、調整対象馬となる。コマーシャル・ストックは、ブリーディング・ストックに属さない馬で、乗馬や乗馬療育など今治市野間馬ハイランドの管理運営で利活用している馬。調整対象馬は、譲渡対象馬であり、繁殖終了馬や非血統登録馬や近親交配系統馬のこととしている。このように繫養馬を分類することにより、現在繫養されている馬を野間馬ハイランド外に貸付又は譲渡できるようになった。



「九州輓馬」の時代を画す



「ハイ、この馬何円!」の掛け声でせりにかけられる子馬。毎年開かれる「ホロンコ市」は、長崎県島原の秋の風物詩だった。威勢のいい振鈴、高値で売ると家族だけでなく親類も交え、持ってきた弁当を広げ母馬と共に別れの宴を開き、子馬を送り出した。この時、子馬がホロリと涙を流すので「ホロンコ市」と言われるようになったという。

しかし、このホロンコ市も昭和40年代を境に衰退し、平成18年をもって幕を閉じた。農耕用に馬を使わなくなったため、かつての馬産地も馬の姿を見るのは難しい。

軍馬生産に腐心

長崎県における馬の生産地は島原半島と対馬で、その他の地域は使役地だった。それぞれ島原馬、対州馬とよばれる。対州馬は体高135cm以下の小型馬ながら島の乗用、駄載用として重宝され、元寇の役で活躍した歴史を持つ。島原馬は昔から対州馬よりやや大きく軍馬、駄馬、農耕用馬の役目を持っていた。

藩政時代に島原藩は松平忠房公が延宝6年(1678)薩摩の馬や南部馬を種馬として移入、御厩方(おうまかた、後の駒方役所)を置き、産馬改良に関する制札を公布し、改良に努めた。村ごとに駒帳をつくり、当歳馬から5歳になるまで馬の異動を記録した。

また、毎年春には「馬改め」といって領内の馬を調べ、駿馬は御用馬に取り上げ(留馬)、藩外への移出を禁じた。その一方、「野放ち」といって原野への放牧を奨励したり、



駒市(後のホロンコ市)も開設した。馬の専門医を見回らせ、病馬があれば治した。さらに毎年3月、馬役人に村内を回らせ、良い馬は軍用馬として買い上げた。買い上げた軍用馬が年を取って役立たなくなると各村の身元の確かな農民に払い下げる配慮もした。こうした諸対策により馬の飼育は盛んになり、島原馬の評判を高めた。

島原領内の牛馬の総数は文政6年(1823)の調べでは、牛2,460頭に対し馬は8,169頭に上ったという。

改良重ね日本一の軽輓馬産地に

やがて廃藩になり、明治の新時代を迎えると藩政時代の奨励・支援策はなくなり、放任状態に陥る。体格、性質の良し悪しを考えない配合、売買が行われ、馬の品質が低下した。そこで松平公はアラブ馬などを輸入して改良に乗り出す一方、一部の人々は農商務省に種牡馬の借り入れを請願、改良に着手した。明治33年(1900)には島原半島をエリアとする南高来郡畜産組合が設立され、島原馬の改良が計画的に行われるようになった。東北、北海道から優良種牡馬を移入、さらに国からの豪州産牝馬の貸し付けが実現、その後の改良努力が奏功、熊本鎮台からの軍馬購買につながった。

牝馬の体高は明治38~39年(1905~1906)当時の平均4尺4寸(約133.3cm)がその後、4尺8寸(約145.4cm)に向上した(日本馬政史5巻)。

アングロノルマン系軽輓馬産地の名声を確実にしたのは、明治42年(1909)に福岡市で開かれた九州沖縄8県連合共進会だった。9頭出品して1等から4等まで7頭が受賞、総合で8県中のトップ、最優秀の成績を挙げ、気を吐いた。その勢いはとまらず好成績を大正、昭和へつなぎ昭和3年(1928)、東京で開かれた全国馬匹博覧会で優勝し、名実共に日本一となった。

大正年代の畜産組合と民間有の馬種は、国産雑種に



馬頭観音神社に奉納されたと優秀馬の写真



橋本さん(右)と
寺田さん

加えハクニー、ペルシュロン、ブラバンソン、ブラジル、トロッターハー、クライズデール、サラブレッドの各交雑種に及び、「骨組みの大きい軽輊馬」づくりに多様な試みを行っていたことがうかがわれる。

馬代金は最大の現金収入

明治43年(1910年)の調査では、郡内で牛8,000頭に対し馬は12,000頭飼育されていた。馬は島原、神代など郡内の4か所(後に5か所)で毎年2,500~3,000頭が取引された。売買された馬は諫早をはじめ佐賀、福岡、さらに中國地方に供給されたほか軍馬に引き取られた。

農家経済に及ぼす効果をみると、大正8年(1919)の島原ホロンコ市では1頭当たり最高580円、最低91円と幅はあるが、水田が少なく当時は夏の養蚕しかなかったから最大の現金収入だった。「当時の一般的な農家は馬1頭、多くて2頭飼いで、子馬も年1頭市に出すくらいだった。だからこの現金収入は貴重だった」と元中学校教諭で現在島原城資料館専門員の松尾卓司さんはいう。

戦後の島原馬

それが終戦で暗転、島原の馬の飼養頭数は昭和25年(1950)には5,500頭まで減った。それでもホロンコ市は多い時は1,000頭近いせりが行われ、盛況を見せた。島原馬の一部は戦前三井三池炭鉱の坑内馬で使役されたが、朝鮮戦争(昭和25~28年)の際は九州の兵站基地佐世保から釜山方面へ徴用されたほか、血清採取に利用されたことを芥川賞作家の田久保英夫は「深い河」(講談社刊)で描いた。しかし30年代に入ると耕うん機や自動車の普及で馬の出番は一層減り、子馬生産もジリ貧をたどった。昭和50年代から平成になると減少に拍車がかかり、平成18年はせりにかけられる子馬は5頭となり、幕切れを迎えた。せり價格は長い間1頭20~30万円台と低調だったが、18年だけは平均48万円を超え、一瞬の輝きをみせた。「生産者と

してはせめて50万円はほしいが、届かなかった。残念だが…」とせりを担当してきた寺田隆則JA島原雲仙北部基幹営農センター指導係長は回顧する。長年馬の生産指導に携わり、ホロンコ市を見守ってきた元農協・県経済連馬事指導員・獣医の橋本健士さんは「かつて島原半島には4か所の種馬所と五か所の馬市があり、その賑わいが忘れられない。ここで育った人達には特別の思いがある」という。

橋本さんによると畜産組合が島原半島の6か所で借地料を払って借受共有林野で馬を放牧していた。現在も田代原放牧場、吾妻岳牧場として続いている、5月に牧を開き、11月に閉牧する。

戦時中は馬にも統制価格があり、定かではないが子馬のせり値は上限が500円だったらしい。同値多数の場合はくじ引きで購買者を決めた。毛色の好みは栗毛、鹿毛、青毛の順だったが、脚の4白、額の大きな白斑などは敬遠しがちだった。「島原産馬は性質温順で女性、子供にも安心して任せられた。それが今では馬の飼育農家も少なくなり、寂しい限りです」という。

橋本さんからは後日手紙が届いたが、島原馬の情報に、俳句が添えられていた。

獣医吾の恵方は馬頭観世音(けん士)

せりいち
糸島市(じしま)の馬に新藁付け足して(けん士)

島原市の郊外三会津吹地区には馬頭観音中原神社がある。神社は江戸時代から続くといい、「集落の人達で守っている」と総代の堀川喜八郎さん。昭和40年頃までは馬を飼っていたが、いまは馬はない。境内には親子馬像のほか九州地区共進会、全国博覧会で優勝した優秀馬の写真が奉納され、往時を偲ばせる。

戦後、島原馬が姿を消してから馬はブルトンの半血が主体になった。11戸で約200頭飼育しているが、用途は馬肉用で熊本に出荷される。

注●本稿の馬の年齢は旧の数え方となっています。

日本の家畜・家禽

美しい写真と簡潔な解説、コラムで知られるフィールドベスト図鑑に家畜・家禽編300品種が掲載された本著が出た。それぞれの家畜、品種の素性、来歴や改良の経過、利活用の現状、文化・観光とのかかわりなどまで簡潔にまとめ、一気に読ませる。

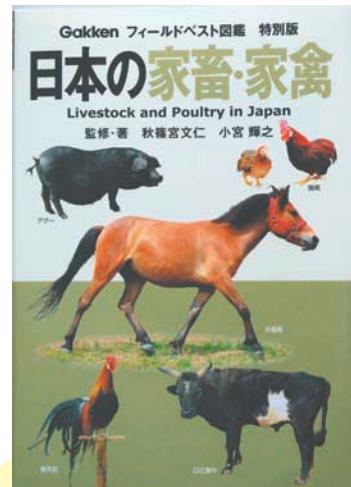
秋篠宮文仁殿下（東京大学総合研究博物館特招研究員・東京農業大学客員教授・（社）日本動物園水族館協会総裁）、小宮輝之上野動物園園長（（社）日本動物園水族館協会会長）監修・著の豪華版だ。「家畜の多様さを楽しみながら、“生きる文化財”としての家畜の大切さに思いを馳せてほしい」と読者にメッセージを送っており、これまでの図鑑にない工夫と家畜の魅力を引き出す企画が凝らされている。

世界で飼育されている家畜の品種は、数千、あるいは万の単位に達するといわれている。その半面、開発が進み、一般的に絶滅に瀕している野生動物がいることについては、関心が高いものの絶滅危惧家畜に光が当たることがまだ少ないようだ。

本書では、家畜・家禽の多様な特徴、原産または飼養地域やその家畜が導入されたルートなど、その歴史的背景を解説し、家畜が“生きる文化財”として大切なものであることを再認識させられるものとなっている。

特に本書は、日本の在来種の歴史や家畜・家禽の祖先などにも焦点をおいた解説がある。こうした図鑑は個別の畜種を取り上げたものはあるが、これだけの畜種を網羅・解説した類書は少ない。馬は、在来馬8種を含め“幻の馬”といわれた牛馬（うしうま、原産地 種子島 昭和21年絶滅）まで50品種余りが紹介されている。また、競走馬、乗用馬、農用馬や小格馬まで海外からの導入された馬がカラー写真で掲載されているほか、馬の祖先、モウコノウマや復元タルパンなど日本の馬のルーツや曲がり家等、馬にかかる文化や歴史等まで紹介している。

我が国で馬が、他の畜種と比べどのような発展・消長課程をたどってきたか、また、今後どのような方向へ向かうのかを比較しながら考え、読むのも一興だ。



日本の家畜・家禽
監修・著
秋篠宮 文仁 小宮 輝之
B6判／カラー270頁／3,000円（税別）

発行／（株）学習研究社
〒141-8510
東京都品川区西五反田2-11-8
TEL.03-6431-1201

ウマの絵本

子供から大人まで楽しめる農文協の園芸絵本シリーズの「そだててあそぼう」にウマの絵本が発刊された。

編者の近藤誠司教授（北海道大学北方生物圏フィールドセンター教授、北海道和種馬保存協会会長、RDAJapan理事長）は、「4000年前に歴史上初めて人類に乗られた馬、乗った人と同じように、現在でも同じように人も馬も緊張している。このように、4000年前同様に少しづつ乗り方や飼い方を覚えて、そして馬をパートナーとする暮らしを続けてほしい」と熱いメッセージを込めている。

このシリーズは、5つのコンセプトで制作されている。①植物や家畜の不思議な生命力を感じる観察のポイント②失敗しないつくり方③楽しい食べかた、加工・利用法④やってみたくなるおもしろ実験⑤歴史や文化や先人の知恵や発見 といったものである。このシリーズでは植物から畜産まで様々なものを題材とされている。

内容は、「走るために進化した馬」から始まり、「馬に乗るって楽しい」など、36頁ではあるものの、馬がどのような動物なのか、昔人はどのように馬と生きてきたのか、また調教や手入れの仕方、馬の妊娠から成長、馬の歩き方や乗ることまで、様々な馬のことを絵本で解説している。数年前に高い評価を得た「ウマの動物学」、「家畜行動図説」（東京大学出版会）「知つておきたい乳牛の行動学」（デーリーマン社）は、動物行動学シリーズだ。本書も絵本でありながら内容は多彩で馬への深い思いに満ちている。絵も馬の特徴を良くとらえ、ダイナミックで楽しい。

この本を通して、馬に対する理解が深まり、馬をパートナーとして暮らす人が1人でも多くなることを願いたい。



そだててあそぼう85
ウマの絵本
編／近藤 誠司
絵／森 雅之
AB判／36頁／1,800円（税別）

発行／（社）農山漁村文化協会
〒107-8668
東京都港区赤坂7-6-1
TEL.03-3585-1141

ハートランド物語 1~6巻

心身ともに虐待され、飼い主に見捨てられた馬を引き取り、傷ついた馬を癒す少女、片や馬に癒される人々を描いた厩舎ハートランドをめぐる青春ストーリー。

いかにも動物愛護の先進地の英國らしい。著者は馬が大好きで、1歳になる頃はもう馬に乗っていたといい、今も毎日のように乗馬を楽しむ。物語の第1巻は主人公の15歳のエイミー・フレミングが先に馬の救助に行った母を事故で亡くし、父親も行方不明。厩舎ハートランドの経営危機…と嵐の夜の悲劇で幕をあける。

しかし、姉や祖父、厩舎に関係する多くの人々、そしてハートランドに連れてこられた多くの馬たちに支えられ、悲しみや苦難を乗り越えていく。この本の魅力は各巻で次々とキー・パーソンはもちろん、キー・ホースが登場、治療をめぐり一筋縄でいかない馬との対峙、折り合いのつけ方の闘いを繰り広げることだ。アロマセラピーや鍼(はり)療法など代替療法にも詳しく、自分の力を信じて、決してあきらめないと姿勢には感動する。半面、愛馬とのつらい別れもある。訳者はあとがきで言う。「この世はうつり変わるもの。永遠に続くものはなにもない」という言葉に前向きな気持ちになる。だからこそ「いま」を大切にしなければならない、悔いを残してはいけない—と評しているのは至言というべきだろう。

各巻とも馬はもちろん様々な人間模様、恋愛模様が散りばめられ、興味は尽きない。青春ストーリーとはいえ、世代を問わず楽しめる。15歳の少女にこんなにもすごい行動ができるのかとも思えるが、著者の体験や強固な心根の反映の一つと考えれば納得が行く。



ハートランド物語 1~6巻
ローレン・ブルック著、勝浦寿美訳
四六判／182~232ページ／950円(税別)

発行／あすなろ書房
〒162-0041
東京都新宿区早稲田鶴巣町551-4
TEL.03-3203-3350

ユダヤ人を救った動物園

本書は、5年以上に亘ってナチスドイツに蹂躪されることになるポーランドの首都ワルシャワ動物園の園長夫妻の動物と人類への慈愛に満ちた、愛と勇気はこういうものであると答えを導いてくれる物語である。

物語は1935年の夏、ワルシャワの街外れの穏やかな町並み、動物園長夫妻の動物に囲まれた朝の日常から始まる。そして動物園の動物たちと妻アントニーナの触れ合い。永遠に続いているほしいと願う平和な光景である。

1938年9月ドイツはチェコスロバキアに侵攻、ポーランドにも領土の割譲を要求して来た。一年後の9月明け方ドイツ軍は一斉にワルシャワ攻撃を始めた。動物園も爆撃され壊滅的な打撃を受けた。数日後ポーランドは降伏。

1939年の秋の描写。

「ドアの下やひび割れから隙間風が吹き込むようになった。夜になると平屋根の上を強風が吹き荒れ、ベニヤ板のシャッターをことごとくゆがませ、テラスの壁のまわりでピューピューとうなりを上げる。施設も芝生も荒れ放題の動物園では、わずかになった動物たちの冬越しの支度が始まったが、そこにはもう、以前のような季節の情景はなかった。」

その後占領されたワルシャワでは、ユダヤ人絶滅政策により、来る日も来る日も市民が通りで殴られ、逮捕され、ドイツへ強制輸送され、ゲシュタポの監獄や収容所に投げ込まれ、大量処刑される。

園長のヤンはレジスタンス活動の闘士となり、妻アントニーナは、危険を顧みず動物園の中で迫害されたユダヤ人300人を匿い逃亡の手助けをした。

1945年1月、ポーランドはソビエト軍により解放され、この物語は終わる。

なお、ナチス高官は、人類に対しては人種差別政策・他民族の抹殺を図る一方、自然・動物に対しては保護政策をとり、絶滅の恐れのある種にあっては復元を図るとの相反した偏執性を持っていた、と述べている。

訳者は、アニマルウェルフェア(動物福祉)の研究者である。これまで馬に関する著作、訳書が多数ある中で特にこの本を訳した理由は、人間は何故差別しないではいられないのか、人間も動物もすべて平等に生きる権利がある、そのため人間は最善の努力をするべきである、とのことではないか。本書は馬に関する記述は少ないが、馬事に携わる方には示唆に富む。是非一読してほしい。



ユダヤ人を救った動物園
ヤンとアントニーナの物語
ダイアン・アッカーマン著、青木玲訳
四六判／374頁／2,500円(税別)

発行／亜紀書房
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
TEL.03-5280-0261



の切手

たうち こうさく
田内 昂作
(馬の切手収集家)

ハンガリー

馬の生産は、9世紀末にウラル系遊牧民を起源とするマジャール人がこの地に定住したときにはすでに盛んに行われていた。19世紀末には、農業用に適した品種をつくるために、サラブレッドとアラブの交配が行われ、ノニウス、フリオゾー、シャギア、ギドランなどの影響もあって、生産は一段と進歩した。馬の登録は品種ごとに団体があり、馬生産スポーツ協会が上部団体として統括している。



ムラケス(1985年発行)

ムラケスは、ムラ川がハンガリー領内を流れる沿岸地方の輶用馬で、起源は、在来の雌馬に、ペルシュロン、アルデンネ、ノリカーといった種雄馬や自国の種雄馬とで交配されて作り上げられたものである。

1920年頃は全体の1/5はムラケスであった。

シグラヴィ・ギドランという馬が1816年にアラビアからハンガリーに輸入され、ギドランの基礎となった。この系統は特にアラブの特徴を現している。



ギドラン(1985年発行)



フリオゾー(1985年発行)

起源は2頭の英國産馬からなり、1836年生のサラブレッド、フリオゾーと1844年生のノーフォーク、ノース・スターの種雄馬が基礎となっている。これらの馬がノニウスの雌と交配されてできており、その後、サラブレッドの導入を続けた結果、乗用馬として適した馬となっている。

起源は、ノニウスと呼ばれるフランスの種雄馬で、ノニウス号は、ナポレオン戦争の間にハンガリーに拉致され、各種の雌馬との間に15頭の優秀な種雄馬を作ったことが起源となっている。



ノニウス(1985年発行)



大草原上の競馬(1968年発行)



キンツェム号(雌/栗毛)(1977年発行)



郵便馬車(1995年発行)



嵐の馬(1968年発行)



救急車100年(1987年発行)



ジョセフ・ベム将軍(1994年発行)



オスマン帝国への反乱250周年記念(1953年発行)

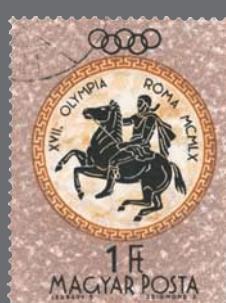


馬の調教、飼育(1968年発行)



バーボルナ牧場200年(1989年発行)

1789年に設立されたバーボルナ牧場では、1816年にアラブの生産が開始された。リビツァを除く全ての品種は、アラブとの交配により改良され、体格のよさと多産で評判となった。1836年には、シリアからシャギアアラブを輸入し、現在子孫が残っている。



ローマオリンピック記念(1960年発行)



競馬(1961年発行) ハンガリーの競馬は古く、19世紀から盛んになっている。

(社)日本馬事協会 60周年を迎える

戦後間もない昭和23年10月に、馬事に関する団体と馬事に関心を持つ個人有志が集まって、馬事振興に関する全国を対象とした団体を設立することを目的に設立総会が開催され、翌24年3月29日、農林大臣の許可を得て社団法人日本馬事協会が設立されました。そして、平成21年3月29日に、満60周年を迎えました。

当協会は、設立当初から昭和40年ごろまでは、馬事関係のサロン的団体として、馬事政策についての建議、陳情、各種調査等の活動が主体でしたが、①昭和40年、農用種雄馬の補充更新配置等業務の国からの当協会への移管に伴う種雄馬配置業務の開始、②同年、「馬事協会便り」の発刊、③同42年、海外からの農用種雄馬輸入購買配置業務の開始、④同46年、乗用馬の生産育成指導業務、及び中央競馬会からの寄贈種雄馬の貸付業務の開始、⑤同51年、軽種馬以外の馬の登録業務開始、⑥同年、日本在来馬保存業務の開始、⑦同54年、ばんえい種雄馬購買配置業務の開始、⑧平成2年、「馬事協会便り」に替わり、「ホースメイト」を発刊、⑨同4年、法に基づく人工授精講習会開催業務開始、⑩同10年、協会50周年記念誌「日本の馬産、戦後50年のあゆみ」発行、⑪同14年、(財)競馬・畜産振興会助成による各種助成事業の開始、⑫同20年、「ホースメイト」休刊に伴い「馬事協会便り」復刊、等々協会の業務は年々強化されて現在に至っています。

当協会の設立から60周年に亘る活動の軌跡は、前述の「日本の馬産、戦後50年のあゆみ」に加えて、この度、60周年記念に発刊した「60年のあゆみ」に概要を掲載しています。

60年の間に、馬産をとりまく環境も大きく変わって、当協会がかかわる競走馬以外の馬のうち農用馬の飼養頭数は、昭和40年ごろまでは機械化の進展等により激減し、その後一時横ばい傾向にありましたが、また、近年では減少傾向がつづいています。一方乗用馬では、馬の多面的な機能に着目した新しい活動の展開も進みつつあり、その飼養頭数はやや増加傾向にあります。

このような状況の中で、60周年を迎えた当協会は、6月5日に行われた第62回総会終了後に、馬事畜産会館「ネクステップカフェ」で、総会に参集した関係者でささやかなお祝いをいたしました。

これからも、わが国の馬産振興のため、役職員一同一層尽力いたしたいと考えておりますので、皆様のさらなるご支援ご協力を願いいたします。



第62回総会で挨拶する赤保谷会長（左）と会場

[新理事]

日本馬事協会は6月5日に第62回総会を開き、木下一己、伊藤政光両理事の退任に伴い、新理事に大西昭男、山本勝博の両氏を選任した。

[日本馬事協会人事 4月1日付]

業務部長 佐藤 修 業務部 田中 寛久

平成20年度優良農用馬生産者を表彰

ばんえい記念はトモエパワーがV3

(社)日本馬事協会(赤保谷明正会長)は、地方競馬全国協会(仲田和雄理事長)の補助を受けて3月29日、帯広市の北海道ホテルで平成20年度優良農用馬生産者表彰式を行った。受賞したのは第41回ばんえい記念競走(4歳以上、オープン定量、3月29日実施)と第33回ばんえいオーフス競走(3歳牝馬、オープン定量、平成20年12月14日実施)に出走した馬の生産者。

ばんえい記念競走は毎年度の締めくくりを飾るばんえい競馬の最強馬による決定戦で、極限の1,000kgの負担重量で競われる。この日は単勝一番人気の「トモエパワー」(牡9歳、松井浩文厩舎、西弘美騎手)が勝負強さを發揮、第2障害で群を抜くと一気に独走、4分50秒8と2着に約23秒差をつけてゴールした。3連覇はスーパーペガサス(4連覇)以来の史上2頭目。

■優良農用馬生産者賞【20名】

第41回ばんえい記念競走(10名)

地 区	氏 名	住 所／馬名
北 海 道	十 勝 三井 宏 悅	帯広市川西町 トモエパワー
	十 勝 林 豊 嗣	足寄郡陸別町 ナリタボブサップ
	十 勝 管 野 富 夫	足寄郡足寄町 ニシキダイジン
	十 勝 高 井 成 男	河東郡上士幌町 イケダガツツ
	釧 路 稲 場 洋 二	釧路市阿寒町 ミサイルテンリュウ
	釧 路 山 田 義 宣	釧路市阿寒町 スーパークリントン
	上 川 (株)坂井牧場	旭川市東旭川 カネサブラック
	網 走 大場 登 喜 男	北見市美園 タケノホウシュウ
	檜 山 久末 代志 市	檜山郡上ノ国町 スターエンジェル
宗 谷	米 田 貢	稚内市樺岡 ヨコハマイサム

第33回ばんえいオーフス競走(10名)

地 区	氏 名	住 所／馬名
北 海 道	十 勝 芳 川 敏 文	十勝郡浦幌町 ニシキエース
	十 勝 松 田 肇	十勝郡浦幌町 ウィナーナナ
	十 勝 佐々木 啓 文	帯広市西12条 キタノメイゲツ
	十 勝 菊 川 義 春	足寄郡陸別町 キクノリアル
	十 勝 金 岡 猛	中川郡池田町 スマイルダンス
	十 勝 風 間 進	中川郡本別町 キタノユリヤー
	釧 路 坂 井 健 一	川上郡標茶町 カネヅル
	網 走 大 野 稔	網走郡津別町 プリンセスピジン
	渡 島 佐 藤 勇	函館市米原町 オオゾラヒメ
檜 山	辻 口 愛 子	檜山郡厚沢部町 ユーファンタジー



力走するトモエパワー



赤保谷会長と優良農用馬生産者賞受賞者(左は、ばんえい記念競走、右は、ばんえいオーフス競走)

表彰式典で赤保谷会長は「ばんえい競馬は帯広单独開催になって2年。次の“第2障害”を越えるにあたって関係者の一層の協力と、新たな振興策が求められている」と語り、今後とも農用馬の生産振興、ばんえい競馬の発展に尽力したい、と生産者を励ました。来賓の北池隆農林水産省畜産振興課畜産技術室長は、「久しぶりに観客が多くかった。涙が出るほどうれしい」と語り、主催者の砂川敏文帯広市長は、「2年目より3年目が正念場。関係者が一丸となり、いい馬をつくり、すばらしいレースで頑張ろう」と語った。約150人が参加した祝賀会では競馬関係者、生産者団体、ばんえい観戦ツアー参加者らが加わり、懇談・交流した。

会場では馬刺し、馬肉の握り寿司、しゃぶしゃぶなど11種類が調理して出され、人気を呼んでいた。

平成21年度家畜人工授精講習会を開催

(社)日本馬事協会は7月13日から29日まで、家畜改良センター十勝牧場(音更町)で、平成21年度家畜人工授精講習会(馬)を開催した。これは、馬の繁殖技術の普及促進と向上を図るために、昨年に引き続き実施したもので、今回で6回目。十勝牧場での開催は4回目となる。

全国から16名(聴講生1名を含む)が、講義科目、実習科目を受講した。今回の講習会では、講義は宮澤清志(元岐阜大学教授)を中心に安武正秀(本会常務理事)、実習は岡明男(十勝牧場業務二課長)の3氏を中心に大沼孝宣(本会北海道事務所所長)が担当した。

授業は、昼休み1時間を使い、朝から夕方まで行われたが、受講生は集中力を切らすことなく、非常に熱心に受講して

人工授精講習会受講者一覧					
氏名	性別	所属	性別	所属	性別
久保喜広	男性	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場
増山均	男性	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場
伊藤文晴	男性	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場
大盛泰崇	男性	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場
木道架津雄	男性	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場
池田啓一郎	男性	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場
笛木幸夫	男性	ジエティクス	ジエティクス	ジエティクス	ジエティクス
大網貴洋	男性	花畠牧場	花畠牧場	花畠牧場	花畠牧場
佐藤久美	女性	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場	十勝牧場
土屋美紀子	女性	土屋畜産	土屋畜産	土屋畜産	土屋畜産
鹿島由紀	女性	自営業	自営業	自営業	自営業
安永博紀	男性	山梨県馬事振興センター	山梨県馬事振興センター	山梨県馬事振興センター	山梨県馬事振興センター
前楚和秀	男性	与那国馬保存会	与那国馬保存会	与那国馬保存会	与那国馬保存会
森幸代	女性	乗馬クラブ	乗馬クラブ	乗馬クラブ	乗馬クラブ
上原明美	女性	乗馬クラブ	乗馬クラブ	乗馬クラブ	乗馬クラブ
計15名					

いた。

実習では、実際に馬を使って直腸検査を行い、人工授精で一番重要とされる卵巣検診、発情鑑定などを重点的に行った。また、エコー(超音波診断装置)を使用することにより、触診でチェックしたものを映像化できるため、受講生は感触と映像を確かめながら技術取得に専念していた。

講習会は各講義の単元で試験が行われ、受講生全員が合格した。人工授精師の免許は、各都道府県の知事が行い、同時に免許証が交付される。免許証を取得することにより、精液証明書の発行や人工授精が行える。

JRAの特別振興資金助成事業で行われている馬生産技術向上対策事業での講習会開催は、今年度で終了する。



青森、神奈川で馬事知識普及公開セミナー

(社)日本馬事協会は9月18日(金)、青森県十和田市民センターで今年度第1回馬事知識普及公開セミナーを行った。今回のセミナーは(財)全国競馬・畜産振興会からの助成を得て実施している「馬生産技術向上推進事業」の一環で、一般市民に馬を理解してもらおうと平成20年度から行われている。

講演は「新たな馬の利活用、治療的乗馬」(講師:川嶋舟東京農業大学講師)=写真、「馬と人間の歴史」(講師:末崎真澄(財)馬事文化財団 馬の博物館・競馬博物館理事 学芸部長)の2テーマで行われ、約160名が聴講、馬文化への関心の高さを示した。

セミナーの参加者からは、「アニマルセラピーについてもっと勉強したい」「馬と人が歴史的に見てこんなに近いとは知らなかった」など熱心な声が寄せられた。

また会場の入り口では、地元乗馬俱楽部関係者が実馬による体験乗馬や、朝取れたばかりの野菜を販売するなど地域ならではのアイデアが感じられた。

十和田市は、来年12月に東北新幹線が全線開業する。そこで、馬で地域を活性化させようという取り組みが市民一丸となって展開されている。



セミナーの親事業である「馬生産技術向上推進事業」は本年度が最終年度で、今年度第2回は11月25日(土)に神奈川県藤沢市の日本大学生物資源科学部で行われる。午前9時30分から「馬の栄養および飼養管理」(講師:松井朗JRA総合研究所研究役)、「馬の病気」(講師:物江貞雄全国公営競馬獣医師協会会长)、「新たな馬の利活用(エンデュランス)」(講師:増井光子よこはま動物園ズーラシア園長)、「新たな馬の利活用(治療的乗馬)」(講師:川嶋舟東京農業大学講師)となっている。

種馬登録の現状

20年4月から本会北海道事務所の高橋健所長の後任として登録業務を行っている大沼です。

前職では家畜保健衛生行政に従事しており、伝染病防護や種畜検査等を通じ馬と接する機会がありました。特に日高地区で勤務した3年間は毎年4月から7月までの3ヵ月間馬伝染性貧血検査で採血に苦労したことや馬インフルエンザが発生した平成18年には十勝地区に勤務しており、ばんえい競馬には全体に発生させない(侵入させない)と防疫対策を行ったことなどが思い出されます。

北海道事務所に勤務して、初めての仕事が、19年度の登録頭数の取りまとめでした。登録事業は本協会の大きな柱の一つで、昭和51年4月から家畜改良増殖法に基づく農林水産大臣の承認を得て始まっています。その登録頭数は馬が置かれている社会環境を背景に平成5年度8,570頭ピークに、平成19年度には4,059頭まで減少しました。その中には平成19年3月15日登録規程事務細則の改正により各団体が実施していた小格馬(ポニー等)の登録を統一し、当協会が実施することとなった857頭が含まれていますので、農用馬、乗用馬、在来馬はピーク時の約37%程度まで減少したことになります。

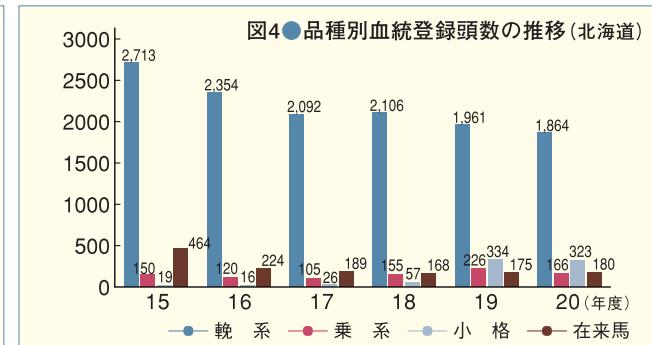
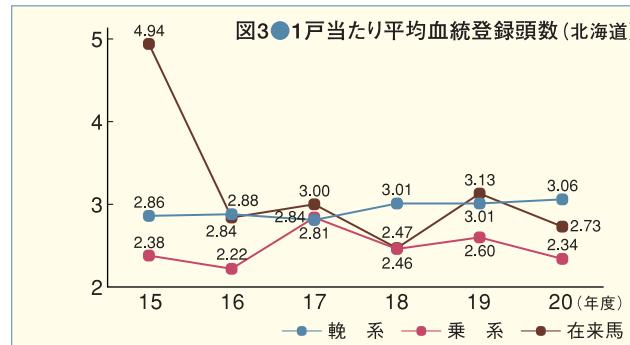
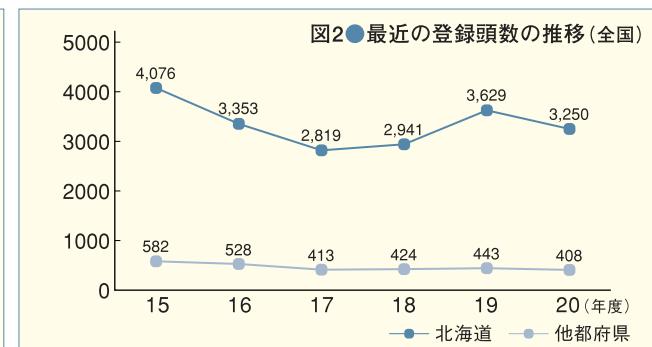
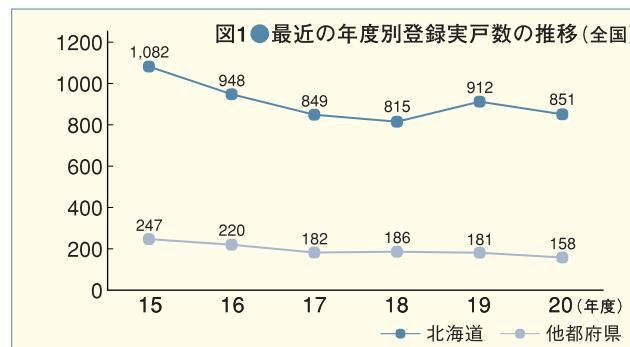
では、「登録戸数」は?…、本協会50周年記念誌を見ても記載されていない。19年度の登録戸数を調べてみた。ついでに5年くらいさかのぼるかと思い登録名簿との格闘をして見ました。平成19年度は登録頭数が一致したが、平成15年度～18年度は過去に報告されたものと登録頭数との差を埋めることができなかった。

平成15年度～18年度は参考程度の資料であるが、貴重な紙面をお借りし、最近(平成15年度以降)の登録状況を紹介したい。

登録頭数は馬の生産率を考えると単純に年度比較できないと思うが、平成15年度以降の登録頭数および登録戸数は図1、図2のとおり北海道では平成15年度1,082戸で4,076頭、平成18年度には849戸2,819頭とそれぞれ減少した。平成19年度は小格馬(ポニー)の登録を開始したことにより戸数、頭数共に増加したが、平成20年度は851戸3,250頭と平成15年度から見ると戸数では21%、頭数では20%減少したことになる。一方、都府県では戸数は15年度247戸582頭から毎年減少し、20年度158戸408頭と戸数では36%、頭数では30%減少している。

北海道における一戸当たりの血統登録頭数を品種区分別(輓系馬、乗系馬、在来馬)に見ると図3のとおり輓系馬は平成15年度2,89頭から平成20年度3,06頭と微増、乗系馬は平成16年度2,22頭から平成20年度2,34頭で推移し、在来馬は平成15年度に4.9頭と多かったが、平成16年度以降は2.4頭～3.3頭で推移している。

北海道における血統登録頭数を年度別・品種別みると図4のとおり輓系馬は平成18年度に前年度をやや上回ったものの平成15年度と平成20年度で見ると2,713頭から1,864頭と約31%減少した。乗系馬は平成15年度～17年度には150頭～105頭と減少したが、平成19年度に226頭と増加、平成20年度には166頭と減少した。在来馬は、平成17年度以降は168頭～200頭前後で推移している。平成15年度以降の登録状況の一部を紹介したが、馬飼養者の高齢化、後継者不足等馬を飼養する環境は厳しいが、乗馬、ホーストレッキングなどのレジャー、ホースセラピーでの社会福祉への貢献など期待されている。地域の馬文化を守り、地域馬産業として維持し登録事業が多忙であることを望むものである。



種雄馬7頭を配置

(社)日本馬事協会は、農用馬の生産振興と資質の向上を図るために、独立行政法人家畜改良センターから優秀な種雄馬7頭を借り受け、9月1日以降北海道、熊本県及び宮崎県の生産団体に配置した。

平成21年度センター有配置種雄馬



1 蜂 蘭	
平成19年3月30日生	
品種	ブルトン
毛色	栗毛
血統	父/ラヴリー 母/束 槍
配置先	熊本県 熊本県畜産農協



4 粒 學	
平成19年4月6日生	
品種	ブルトン
毛色	栗毛
血統	父/ネスター 母/勉 斬
配置先	宮崎県 都城農協



2 蜂 健	
平成19年5月26日生	
品種	ブルトン
毛色	栗毛
血統	父/ラヴリー 母/権 槍
配置先	熊本県 熊本県畜産農協



5 駐 磁	
平成19年3月29日生	
品種	ペルシュロン
毛色	青毛
血統	父/コブー 母/石 爵
配置先	北海道 ホクレン函館支所



3 粒 桃	
平成19年3月4日生	
品種	ブルトン
毛色	栗毛
血統	父/ネスター 母/梅 琉
配置先	北海道 ホクレン倶知安支所



7 優 煙	
平成14年3月21日生	
品種	ペルシュロン
毛色	芦毛
血統	父/大 裕 母/輝 頂
配置先	熊本県 熊本県畜産農協

～両陛下をお迎えし「愛馬の日」～



馬の演技をご覧になる両陛下（上）、ばんえい競走馬の披露（右）



「馬事知識普及公開セミナー&上北乗馬フォーラム」及び 「第36回遠野市乗用馬市場・上場馬カタログ」 放映決定！

グリーンチャンネルでは、9月18日（金）に十和田市民文化センターで開催されました「馬事知識普及公開セミナー（社団法人日本馬事協会主催）」及び「上北乗馬フォーラム（上北地域県民局主催）」の模様を以下の日程で放映致します！

また、11月1日（日）に「遠野馬の里」で開催される「乗用馬市場」の上場予定馬の最新映像を、せりの開催に先駆けて、以下の日程で放映致します！

どうぞご期待下さい!!

番組名	日時
① 馬事知識普及公開セミナー (社団法人日本馬事協会主催)	11月2日(月)13:30-14:00 ※再放送は9日(月)、16日(月)
② 上北乗馬フォーラム (上北地域県民局主催)	11月23日(月・祝)13:30-14:00 ※再放送は30日(月)、12/7日(月)
③ 「第36回遠野市乗用馬市場・上場馬カタログ」	10月26日(月)～30日(金) 13:30～14:00



スカパー!、ケーブルテレビ、IP放送でご視聴できます。
詳しくはホームページで！ <http://www.gch.jrao.ne.jp>



お問い合わせ／グリーンチャンネル
03-5620-3344

遠野産乗用馬が世界の舞台で快挙

平成21年6月13日、福島大輔選手（JRA馬事公苑所属）が内国産乗用馬ハリー・ペイに騎乗してCSI2*Roeser（ルクセンブルグ）のPrix FARE SA (130cmクラス)で優勝した。

CSI2*とは、国際馬術連盟が主催している国際障害馬術競技会で、競馬で例えるならば、グレード競走にあたるもの。この競技会は、これからレベルを上げていくための競技会であり、いわばオリンピックや世界選手権の予備選考会というようなものである。

このハリー・ペイは、遠野市乗用馬生産組合（菊池栄喜組合長）の生産馬で、父は平成9年よりJRAから寄贈を受け、遠野市畜産振興公社に貸し付けていたフロドラジェルベーズであり、母は平成8年に（社）日本馬事協会がJRAの助成を受けてフランスから購買したゾネである。

父フロドラジェルベーズは、平成9年から種雄馬として供用され、現在、遠野産馬が高い評価を得ているのもこの馬の功績によるところが大きい。残念ながらこの馬は平成17年3月

29日に腸破裂のため死亡した。このため平成14年にドイツから導入したフリーデンスラート（ウェス）が後継馬を担っている。

母馬ゾネは、平成8年にJRAの助成事業により、フランスから導入した繁殖雌馬のうちの1頭であり、この事業によって平成7年から平成12年までの6年間に21頭が導入された。

同馬は、日本に導入されてから、持ち込み馬も含めて、7頭産んでいる。この7頭のうち2頭がJRAに購入されており、ハリー・ペイは、そのうちの1頭である。同馬の生産者である菊池栄喜さんは、生産馬に数字を付けて呼んでいる。ゾネの産駒はヴィクトワールと呼び、同馬はその4番目に当たるので、旧馬名はヴィクトワールIVと命名されている。

菊池さんは、平成13年に遠野市乗用馬生産組合長に就任した当時、「遠野産馬をオリンピックへ」という目標を掲げている。以来、関係団体、購買者等との関係を密にして、遠野産馬の質の向上と市場の活性化に努めており、今回の朗報は日頃の労苦を忘れさせるものとなった。

セ・フ ハリー・ペイ	セ・フ フロドラジェルベーズ FLO DE LA GERVASE	セ・フ QREDO DE PAULSTRA
セ・フ ゾネ DAME DES HONETS	セ・フ VENISE DU THOT	セ・フ ARTICHAUT
	セ・フ VICTOIRE DU LUOT	



©JRA提供



©JRA提供

馬は1頭も帰らなかつた

—『国境の馬』拾遺—を出版した詩人

栗原 澄子さん

戦後64年。「いまさらなぜ軍馬なのか」という人は少なくないのではないか。しかし、昨年、「馬は1頭も帰らなかつた」(詩集「洗髪祀り」所収、北冬舎)、今年春に『国境の馬』拾遺(『野蜂』XV所収、七月堂)を出版すると、地元はもとより県内外から予想だにしなかった反響があった。人と馬との濃密な交流と軌跡、そしてさまざまと蘇る昭和という時代との邂逅…それは断ち切れない思いで生きてきた人々と軍馬への鎮魂歌だったからではないのか。

——軍馬をテーマに詩作されたきっかけは、何だったのですか。

「わたくしが物心ついた頃、村の風景のなかには常に馬がいて、農作物を運んだり、子供も一緒になり泥まみれになって、働かされていました。日中戦争が始まると馬が消え、農作業は馬から牛に変わっていました」

「終戦になると馬の消息ははたりと消え、馬は帰ってきませんでした。馬に特別な関心を持っていたわけではないのですが、ここへきて時代がまた(暗い時代へ)戻ってきているような気がして…アオ(馬)の帰還はあったのだろうか。その思いは遠い幼い日以来の不審、あたりどころのない悲憤でもありました」

——調査・聞き取りはどうでしたか。

「記録するより、自分が経験したことの記憶を大事にしておきたい、掘り起こしたいという思いが強かったのですね。詩集『洗髪祀り』の中で「国境の馬」を発表した後、より軍馬の裏付けをとり、つきとめたいと思っていました」

「日中戦争から太平洋戦争にかけてどれだけの馬が徵發され、そのうち何頭が帰還できたのか。基礎事実の



略歴 くりはら・みおこ

1932年(昭和7)埼玉県生まれ。詩集に『ひとひらの領地』(詩学社)、『似たような食卓』(同、第21回埼玉文芸賞)、『日にについて』(同、第2回埼玉詩人賞)、「洗髪祀り」(北冬舎)、歌集に『水盤の水』(北冬舎)、散文集に『黄金の砂の舞い一嵯峨さんに聞く』(七月堂)、「日の底ノート」(同)ほか。女性の自立へ東松山市初の認可保育園を設立・運営、後に詩学誌の詩学社に勤務。東松山市在住。

確認から出発したのですが、(わたくしがあたった限り)研究書も、公的資料も確かな統計を持たないようです。国会図書館、日本馬事協会、防衛研究所図書資料室、農水省図書資料室、靖国神社偕行文庫などへ問い合わせ、行脚しました結果分かったのは、馬は1頭も戻ってこなかったということ。ショックでしたね」

——軍馬については戦時中は機密事項であり、終戦時には焼却処分されたといわれますから…。

「子供の頃は、出征軍馬を讃え皇軍の戦力として愛馬キャンペーンの中で育ってきましたが、その実は使い捨て同然。美名のうちの酷薄が痛いほど実感されました」

「調査の際は各機関の方々は予想外に親切でした。その半面、数少ない旧陸軍の通達・報告の綴りなどはG·H·Q(連合国軍総司令部)の接収印が

あり、表紙にはいかめしい「極秘」の文字があったのには驚きました。結局、他の戦史資料についても軍馬史はまとまっていないとのことでした」

——著作の中で数多くの証言・手記を紹介されていますね。

「軍馬の運命を伝えるのは、愛馬キャンペーンを繰り広げた陸軍大臣ではなく、かつて馬とともにあった兵士と関係者の回想記と証言集の自費出版本でした。そこで、私が気付いたのは、出版された何冊かの奥付が、平成の年号を入れていたことでした。(昭和という)それまでの“人生時間”ともいべき長いときを経て、いま語り残さないと禍根を残すかもしれないという切迫したものを感じるのです」

「馬に課された戦場の過酷さは、しばしば目をそむけさせるものでした。衰弱したり、戦傷を負った馬はそのまま捨てられるか、銃殺され、極限の状況下では兵士に食われました。馬は高い知能や豊かな感情、人を信頼する性質があります。それからしてわたくしたちは、馬のこうした悲惨を不間にし、目をそらすなど“無制限な不感症”となっていては、いずれ人間の(心の)荒廃を招き寄せるに違いないと思われるのです」

——運よく帰還できた元兵士や、馬を送り出した農家が鎮魂碑を建てたり、馬頭観世音をまつるもののが各地にあります。日本人独特な精神史的一面もあります。

「この本を出してから読者の方々から軍馬鎮魂碑の情報や地元研究者の紹介、関連文芸作品の教示をいただきました。例えば軍馬が出てくる『昭和万葉集』(講談社、復刻版)や、詩人・三好達治の『艸千里』にある、行軍中に捨てられた廃馬の悲惨を訴える「列外馬」をはじめ詩歌集のコピーなどを送ってくださる方がいました。短歌や詩歌の文学は記録性が高く、関心があります」

国境の馬

下の道にガタガタと音がした。表に飛び出してみると、板廻いしたトラックが隣の家のかど口に停まろうとするところだった。台所の母からニンジンを貰うと、私は隣の家庭に走った。アオは、庭の柿の木にいつものように繫がれていた。トラックのまわりに、巡回と役場の人と、馬方らしい人が立っている。隣のおじさんもそこに立った。おばさんが、茶を盆にのせて立った。

仔馬のときから兄弟のように過ごしてきたおと、一郎、花子の別れ。頬ずりするあお。「あお、万歳、万歳」。囲む日の丸の旗。正体のよくわからない感激に、私たちは涙ぐむ。最後は南京入城の場面だった。あおは挙手する将校を背にのせて、栄えある歩を運んでいた。日の丸を手に駆け寄る中国の子供も描かれていた。

「祝出征」と両側に大きく書かれた布を、役場の人と馬方がアオの背中にかける。アオは頸をまわして一度うしろを見るふうにしてから、大きく頭を上下させ、それから一二、三度前肢で地面を掻いた。肢の付けねから頸すじへの筋肉が、色づきはじめた柿の葉ごしの朝陽をうけて、透きながら震えた。「アオ」。私が差し出した二ンジンにアオの頸が伸びたとき、アオのやわらかいどこかが、私の掌に湿りを残した。

翌年の田植えどき、菩提寺の広正寺に、戦時託児所というものが開設された。ブランコやべり台が境内に設置されて、私たちを驚かした。しかし何よりも子供たちを虜にし、夢中にさせたのは、広正寺の住職が演じてみせる紙芝居だった。誰も紙芝居など見たことがなかったのだ。紙芝居には「あおの出征」があった。

敗走のニューギニア戦線に消えたのもアオだった。あれはいったい沼だったのか川だったのか。渡河ならば挽き荷から先に引き込まれ、足掻きながら沈んでいた。

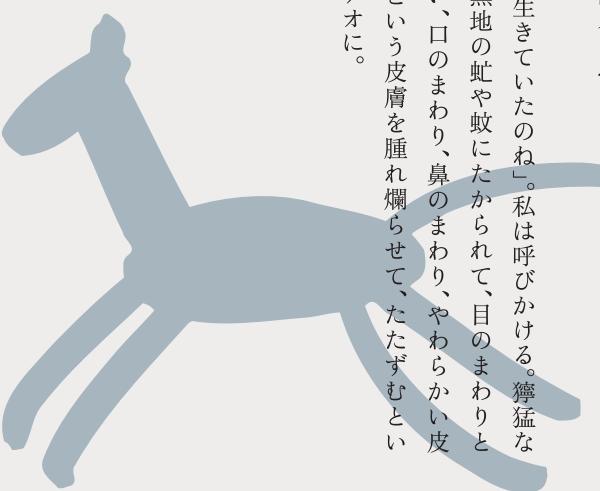
山西省の暗谷に墮ちていったアオ、ニューギニアの泥水に沈んでいたアオを暗澹と見送つて十年も経っていた。一人の詩人の、ソ満国境からの逃亡記録を読んだ。中朝国境まで逃れていた。国境ぎわの朝鮮系住民集落。逃亡中の詩人は農奴状態に近い三ヶ月余をそこで余儀なくされる。過酷な開墾の使役にたえる馬がそこにはいた。馬は詩人による日本語に、おのずからな反応を見せるのだった。その骨格からも、日本軍におきざりにされた軍馬にちがいないと詩人は思う。

敗戦の兵士はひっそりと、いつのまにか村に帰ってきた。ずっとそうしてでもいたよう、野良仕事にもどった。馬の帰還というものはあつたのだろうか。アオは帰らない。馬の入隊記録はあるのだろうか。アオの行方は誰も知らない。だから、アオは思いもよらぬところに繰り返し姿を現わす。

鞍傷に朝の青蠅を集らせて
砲架の馬の口の草汁

暗谷に昨夜墮ちゆきし馬思へば

朝光ぬちに寄り合ひし馬



訂正 前号19ページ「馬の涙」の本文中に「北海道津別市」とあるのは、津別町の誤りでした。

日本馬事協会は団体会員、個人会員の皆様を始め、ご支援いただいている方々へ活動近況のご報告を兼ねて機関誌「馬事協会便り」をお届けいたします。10月、3月と年2回発行を予定しています。



よめぐら
嫁鞍（日本、佐渡）
明治29年に使用されたもの
53×68×67.5cm



嫁荷鞍（日本、佐渡）
家紋入りの大変古い嫁荷鞍である
52×66×74cm



荷鞍（日本、新潟県）
品物を運搬するための鞍
50×60×88cm

(中野市経済部商工観光課蔵：山岸安信馬コレクションから)

社団法人 日本馬事協会

〒104-0033

東京都中央区新川2-6-16(馬事畜産会館7F)

TEL.03-3297-5626 FAX.03-3297-5628

URL <http://www.bajikyo.or.jp>

E-mail jeaa@bk9.so-net.ne.jp